

50周年記念大会をふり返って  
—イベント部会展示委員会—

田中 讓

大阪のスポーツが、大阪のみならず日本のスポーツの発展に多大な貢献をしてきた事実を詳らかにすることは、50回という節目の大会でしかできない、という思いで私は今回の展示に関わりました。この思いは、展示を終え、大阪の果たした役割を再確認できた現在の方がより強いものとなっています。

大阪のスポーツは、明治にスポーツが移入されて以降、学校、新聞社、電鉄会社、スポーツ産業等の民間が中心となって基礎を築き、発展してきたところに特徴があります。これは東京にはないものと思われれます。展示委員会は、この特徴をどのように展示で表現できるかと苦心しました。多数の会員と様々な分野の皆様の協力をいただきながら、時間等の関係でそれらを十分活用できる内容となっていなかったという反省が残っています。幸い、学会が本という形で残すことを決定していただいたので、この反省を糧にさらに充実させることができることを喜んでいます。

さて、展示内容については、故白銀茂夫氏の「なにわのミニスポーツ史」が果たした役割が大きいといえます。この本が参考となって、大阪のスポーツを探ることができました。展示当日、茂子夫人が会場にお越しになり、「なにわのミニスポーツ史」製作に関わる話を伺いました。文献を探し、文章の構成等大変な苦勞をかけられたようです。こうした先人の苦勞と努力のおかげで、現在の姿があることを本の製作過程からも痛感しました。

作成する本は、大阪に関わりを持つ様々な人々が「なにわ」の姿を再認識するきっかけになることを願っています。とともに、この機会をイベント部会が与えてくれたことに感謝しております。